

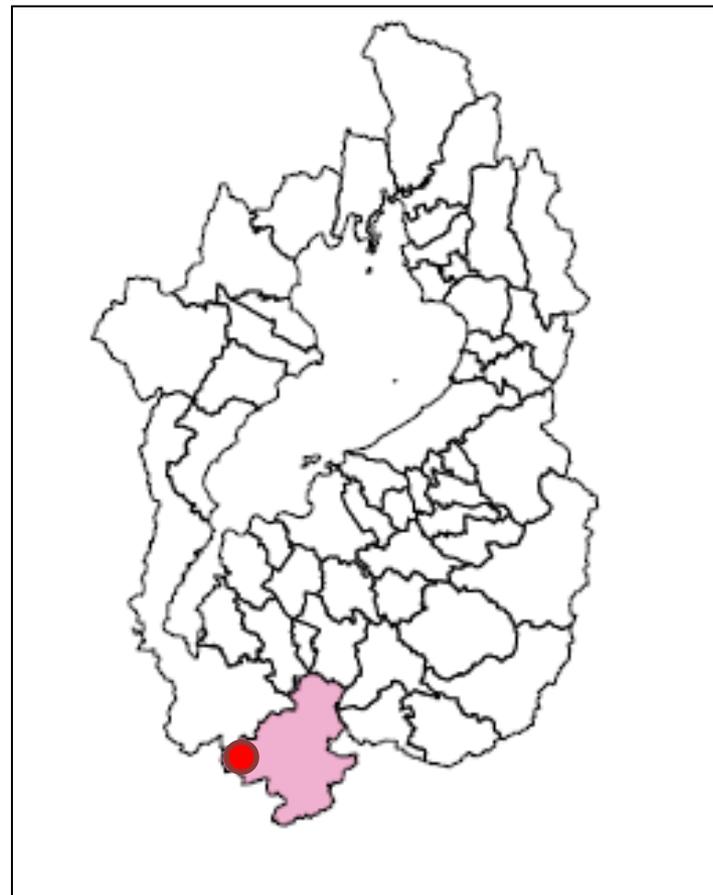


獣害に負けない集落づくりを目指して

滋賀県甲賀市信楽町宮尻
農業組合代表 関谷武治

宮尻集落の概要

■総戸数	40戸	150人
■農家戸数	20戸	
■耕地面積	水田	4.6ha
	畑	0.7ha
	茶園	22.1ha
■農業粗生産額	9,400万円	



- サル・シカ・イノシシによる恒常的な被害
- 平成23年(取組前)農作物被害金額 135万円
 - 水稲 102万円
 - 茶 33万円

活動の経過

平成23年以前 ○トタン柵・電気柵等を個人対応で設置

平成23年 ○集落ぐるみによる取組開始
・侵入防止柵の整備計画の検討
・獣害対策リーダーの育成(研修会の受講)

平成24～26年 ○侵入防止柵の導入と維持管理体制の整備

平成27年 ○集落環境調査と被害防止計画の策定
○小型家畜(羊、山羊)による放棄地対策開始
○獣害に強い新規品目の試作
・エゴマ(H27)・ショウガ(H29) etc.



活動の経過

平成28年

- 市単独事業を活用し緩衝帯整備
 - ・放任茶園の伐採(1ha)
 - ・放任果樹の伐採(H30年50本)
- 家庭菜園対策
 - ・共同菜園におじろ用心棒
 - ・サル接近情報を活用した追い払い

平成29年

- 集落としての捕獲の推進
 - ・免許取得の助成
 - ・箱罠の増設



H24~26 侵入防止柵の整備



国の交付金事業により延べ4.4kmの防護柵を整備

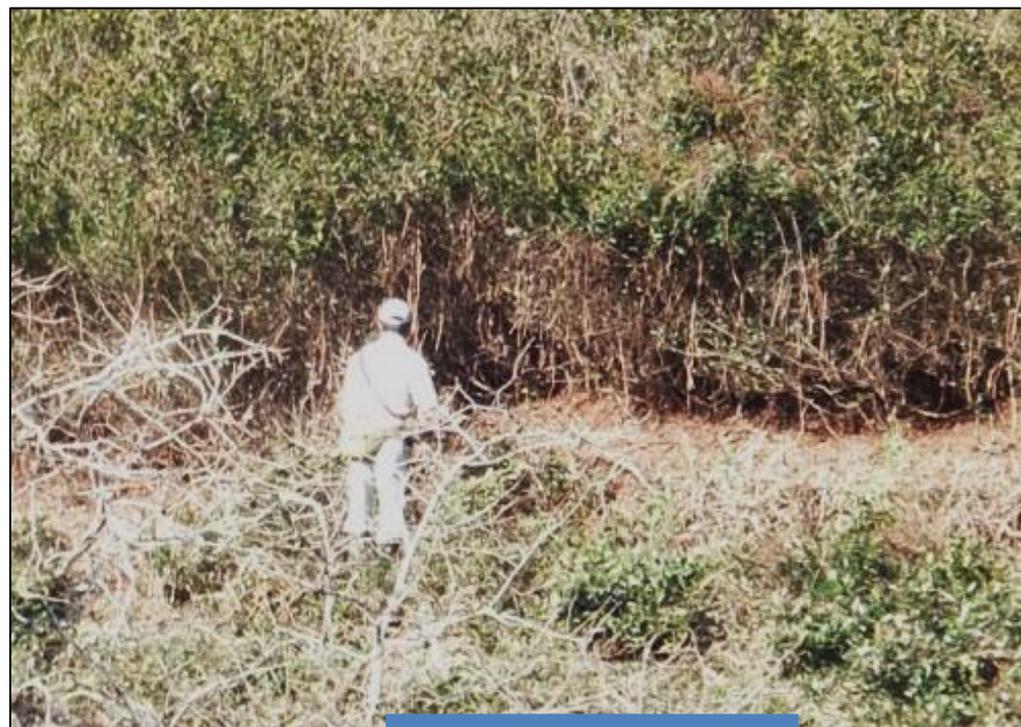
H28~30放任茶園・果樹の伐採



放任柿



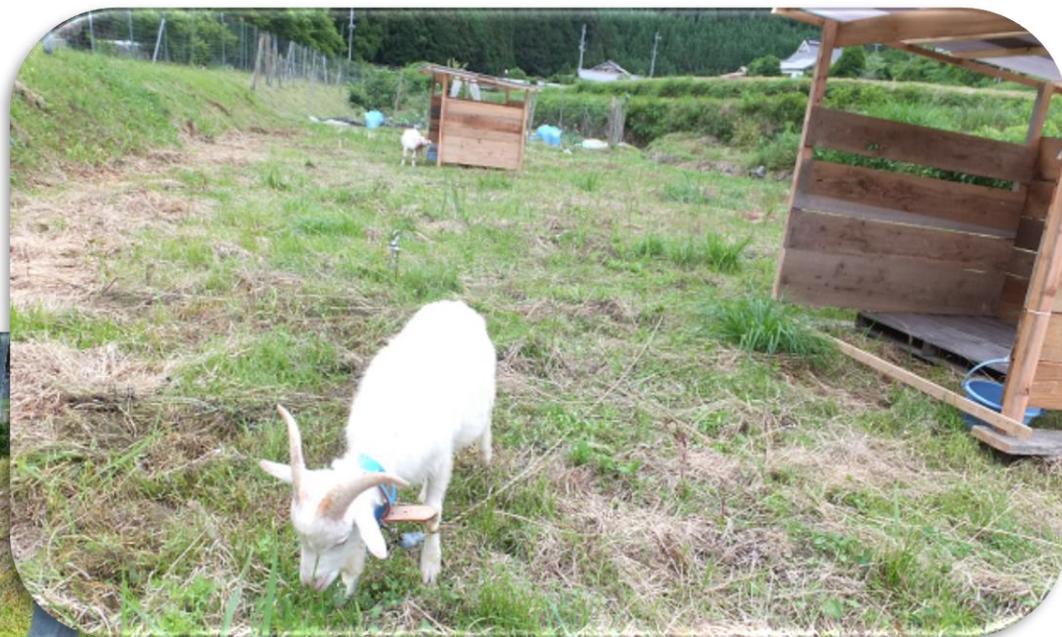
放任クリ



荒廃した茶園の伐採

甲賀市の単独事業を活用し放任茶園（1ha）や不要果樹（50本）を伐採。

H28~30 耕作放棄地対策で家畜放牧



羊やヤギの活躍で放棄地は農地に生まれ変わる。集落の交流場所になり、期待以上の効果があった。

H27~R3 獣害に強い新規品目の導入



ショウガ(4a)

エゴマ(2a)

ドクダミ(12a)



トシ・密(20a)



H27~R2 集落の工サ場価値の低減



おじろ用心棒の実証



無事収穫できたことに大喜び



共同菜園は老人クラブが運営

共同菜園におじろ用心棒を設置。サルは何をしてもダメとあきらめていたが、正しい対策をすれば被害は出ないことを実感。

H27～現在 サルの追い払い



甲賀市の接近警報システムにより、みんなで追い払う仕組みづくりを導入。

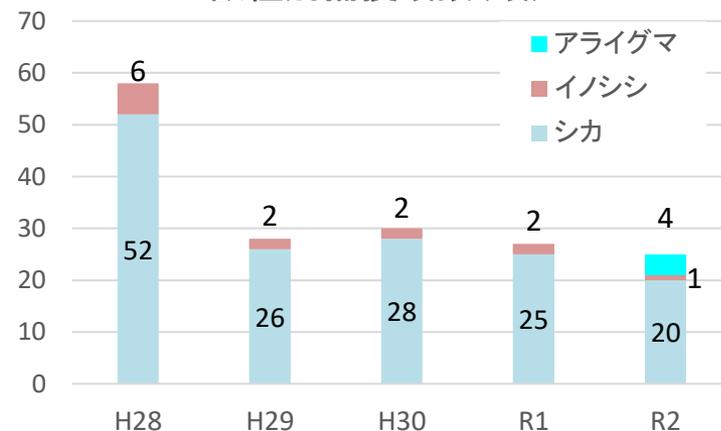
追い払いは集落の高齢者が中心。R2年頃からサルは集落に近づかなくなった。

H28～ 集落主体の捕獲



捕獲従事者の育成、箱わなを増設し捕獲を推進。H28年度に新たにセンサーを活用した檻を増設。

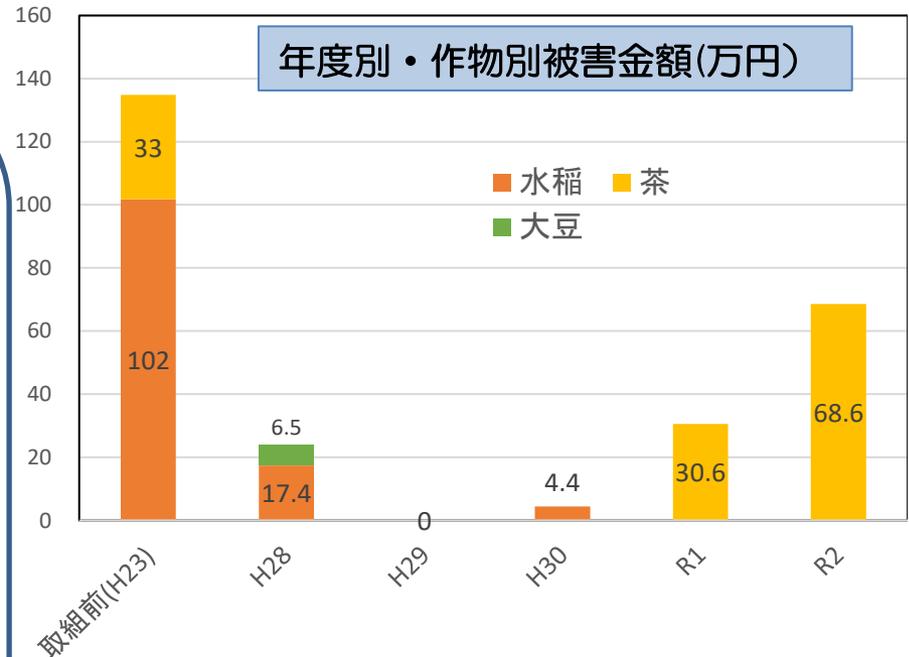
獣種別捕獲頭数(頭)



活動の成果と今後の課題

活動の成果

- 被害金額は135万円から70万円に大きく減少した。
- シカ、イノシシの水田への侵入防止を継続し、被害はなくなった。
- サルの群れはR2年から集落に来なくなった。
- 耕作放棄地から復活した農地約40aに新たな農産品の栽培の目途ができた。
- 被害が減少し、営農意欲が向上した。(アンケートより)



今後の課題

- 被害対策のリーダー育成
- 被害茶園対策
- シカ肉の有効活用

獣害対策の取組みを通じて、集落の元気を呼び覚ますことが最終目標